

令和6年度シカ管理検討協議会 会議録

令和6年8月21日（水）開催

【事務局】 1 開会

【事務局】 2 あいさつ

【事務局】 3 議題

- (1) 令和5年度シカ管理対策の実施状況について（報告）
- (2) 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業評価報告について（協議）
- (3) 令和6年度シカ管理対策について（協議）
- (4) その他

【事務局】

（資料1により説明）

【青井会長】

それではただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問ご意見等あれば、よろしくお願いいいたします。

【宇野構成員】

2点あるのですが、効果的捕獲のICTというものが、どのようなものを使用しているか。また、シカによる列車事故ですが、790件というかなりの件数があります。これは死亡したということでのよいのかお聞きしたいと思います。

【事務局】

具体的な商品名になりますが、ほかパトというものを使用しています。ご存じかと思いますが、わなに掛かった際に通知するようなシステムでございます。

後段の御質問ですが、事故にあったシカが死んでしまったのか、そのまま生き延びているかについては、把握しておりません。追って確認したく考えております。

【宇野構成員】

分かりました。もし列車で790件も事故があり、その多くが死んでしまったと仮定したら、それを捕獲頭数（シカの減少）に反映してもよいかと考えました。この値で今後の個体数推定も変わってくると思います。

【青井会長】

ただいまのご指摘は、重要な点だと思いますので事務局でもご検討願いいいたします。その他よろしいですか。

【青井会長】

私の方から質問ですが、5ページですかね。

効果的捕獲促進事業で、去年の捕獲は21頭だったということで、その中で、錯誤捕獲防止として空はじきが発生したことによると説明がありましたが、この捕獲防止というのはどういうものなのかということと、ここで初めて使ったから取れなかったという理解でよ

ろしいでしょうか。

この質問は猟友会からの方が良いですね。

【寺長根構成員】

ICT 機器というのは、わなに発信機があり、わなに掛かると、従事者の携帯に通知が来るようになっています。

そこで実際に捕獲できているかは、もう行ってみないと。誤作動で動いているということもあります。私どもは、わなをかけると、1日1回を見てですね、見回りしてくださいという決まりがあるものですから、それはもうICTを使って、それを改善して、しっかりするってということで、発信機を使っております。

【青井会長】

ここに書いております、錯誤防止を使用したから空はじきが発生したから取れなかったと説明がありますが、錯誤捕獲防止のわなはどのようなものか教えていただきたいとおもいます。

【寺長根構成員】

わなの形状が違いまして、普通は丸い輪の外にところに足を入れるとわなが掛かるわけですが、その上にカバーがあるので、クマなんか掛からないように。そのようなものを使ってみて、誤作動というのは結構あったと思います。

【事務局】

錯誤捕獲のわなですが、わなにカバーがあることによって、大型獣類だとそのカバーのところで引っかかってしまい、踏み抜かないとわなが掛からない仕掛けになっております。

シカだと足が細いので、そこを踏み抜くという仕組みですが、その踏み抜きの際、製品の仕様上、どうしても空はじきが生じてしまいます。

効率という意味からすると、そのあたりのはずれが生じてしまったのが要因であると思っております。

【宇野委員】

よろしいでしょうか。

今回の調査の報告書で、ドローンを飛ばしているのですが、去年の12月の段階で遠野地区では200頭ぐらいのシカが撮影されているので、もう少しその辺の捕獲の強化を行っていくのが、より効率的かと考えております。

【事務局】

はい。この地域においては、有害捕獲などで、今年度の国のシカ特別対策事業を活用して新たに取組を進めることとしておりまして、そういったシカ特別対策での集中捕獲であったりとか、今年度このような事業を実施しますので、そのような場合にですね、昨年度の調査結果を生かしていきたいと考えております。

【高橋構成員】

先ほどの資料の方で雪がない中で、2万9000頭ということで御尽力いただいたと思いま

すが、その中の説明で狩猟期間の延長に効果があった判断していると説明を受けたのですが、従来期間と延長期間でそれぞれの実績というものが比較できるような形にするとわかりやすいかなと思ったのですが、その辺りいかがお考えでしょうか。

また、指定管理鳥獣捕獲等事業という場合は11月から2月、有害捕獲は3月から10月に時期を分けていると思うのですがけれども、例えば指定管理鳥獣捕獲等事業での捕獲した後、この狩猟を期間延長しても、その地域では、捕獲が難しくなっているかもしれないというようなことを考えますと指定管理鳥獣捕獲等事業と狩猟期間の延長というものをどのように考慮しているかという点をお聞きしたいです。

【事務局】

まず、前段の御質問でございますけれども、狩猟期間の延長する前と後で、月別に分析した方が良いのではないかと質問だと思いますが、今回、私共も狩猟期間のデータを洗い出したのですが、一部のデータ、例えば県外狩猟者の方ですとかで、捕獲日が分からないデータがありまして、今回のような報告になってしまいました。

また後段の御質問ですが、狩猟と指定管理鳥獣捕獲等事業の棲み分けですが、あくまでその狩猟というのは趣味というか、個人の都合による判断で行っております。

一方、県の指定管理鳥獣捕獲等事業というものは、国からの支援を受けまして、県としても第2種計画に基づき、シカを捕獲し、目標を達成しなければならないということもあります。現時点では、現状の整理のとおりと考えております。

【青井会長】

ありがとうございます。他に何か質問はありますでしょうか。

ないようですので、議題（2）令和5年度指定管理捕獲等事業評価報告へ移りたいと思います

【事務局】

（資料2により説明）

【青井会長】

それでは、評価報告につきましてご意見ご質問等あれば、よろしくお願いたします。

6ページの解体施設についてお聞きします。最後の全体評価で、「鳥獣捕獲個体処理効率化支援事業を創設」とありますが、そのような施設を作ったということによろしいでしょうか。そうであれば、何ヶ所ぐらいでしょうか。

【事務局】

こちらですけれども現状、本事業を活用した実績はございません。

詳細を御説明しますと市町村、もしくは一部事務組合等が、解体処理を行うための解体施設を設置する場合の費用を負担するものでございます。今年度から始まったということもございまして、実績はまだ無いという状況でございます。

【青井会長】

要するにある市町村が作ろうとしたときに建設費を、補助するという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

そのとおりです。

【青井会長】

まだそういう要望はないわけですか。

【事務局】

一部自治体において、活用に興味があるという意見は聞こえてはいますが、実際に活用までは至っていない状況です。

【高橋構成員】

今、青井先生からも、質問にありました解体施設なのですが、例えば捕獲を実際にやると、解体や運び出すこと自体、負担が大きいのですけれども、それをサポートする事例として、北海道でかつて残滓ステーションって言われていたのですが、その解体の程度がどこまで進んでいたのか、あるいは、丸ごと、そのままであったか記憶がおぼろげなのですが、ゴミ捨てたみたいイメージなのですが、そういうものをですね、用意していただくというようなことが、検討していただけないかということですね。問題点の整理からということになると思うのですが。もちろん対策とか色々配慮しなければならないことがたくさんあるとは思いますが、このような事例をやっていただけないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

昨年度、今回の予算を組む時に検討した経緯もありまして、その事例を調べてみたのですが、まず、課題となったのが、ステーションを設置しているところに関して、単独の町でやっていることもあり、その町が設置したところに、隣接のところから持ち込まれるなど、関係のないシカまで持ち込まれてしまって、回収する分が増えてしまったという課題があった模様です。あとは、実際にそのステーションとして稼働する時なども、どの範囲の市町村でどのように取り組むかというところがなかなか調整つかないところもありまして、本県での導入は難しいということで断念したところでございます。その結果として、何か他に代替の手段がないかということで、今回、まずは、焼却場に持ち込むにあたって狩猟者の負担になっているという課題は、市町村要望でも把握しておりましたので、まずはこの部分の課題解決ということで、今回の解体処理事業を創設させていただいたところでございます。

【青井会長】

他に質問はありますでしょうか。

よろしいですか。それでは、特にないようですので、議題（3）の令和5年度指定管理委員と事業評価報告につきましては、事務局案のとおり、関係省へ提出するようお願いを

いたします。

次に、議題（3）令和6年度シカ管理対策についてに移りたいと思います

【事務局】

（資料3により説明）

【青井会長】

それではただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問ご意見等あれば、よろしくお願いいいたします。

【宇野構成員】

広域捕獲選抜部隊モデル事業についての質問です。

和歌山県猟友会と岩手県猟友会が入っていますが、その2ヶ所でやるという理解でよろしいでしょうか。

【寺長根構成員】

はい。

【宇野構成員】

各県でそれぞれ取り組んでいるということでしょうか。

【寺長根構成員】

そのとおりです。

【宇野構成員】

はい、わかりました。

【深澤構成員】

少し、話が前に戻るかもしれませんが、私、山で巡回していると、道路にごろんと、シカの個体があつたりしますね。尻尾は取られているということがたびたび見受けられると思うのですけれども。

県としますとすね、その管理体制について、各市町村によく指導していただければ助かります。盛岡も随分ありますけれども、やはり捕獲、捕獲じゃなくて、受け入れ自体もきちんとしておかないと。よく指導していただければ助かります。

【事務局】

承知いたしました。猟友会もそうですし、市町村に対しても、そこは注意するように、県からも働きかけていきたいと考えております。

【青井会長】

はい、捨てられた死体をクマが食べちゃうという報告もありますので、やっぱりそういう意味でもこの問題は重要かなと思っております、ぜひお願いいいたします。

【高橋構成員】

高い目標を設定しても達成が困難ということで受け取りましたけどもこれは、このシミュレーションの自然増加率1.21という数値がよく使われています。これ、他の点でもよく

かれると思うのですが、北海道の知床半島の個体をベースにしているものではないかと思うのですが。それが、もう、条件が悪くなって、大量にシカが発生したっていうような状況も含めて出した値ですので。岩手県では沿岸その他の地域、まだまだ増える余地があるようなところですよ。増加1.21っていうのは、2頭がいれば、翌年、2.5、3であるっていうことですから。増加率が1.5以上あるというのが、単純に考えれば考えられると思うのですが。そう考えるとですね、もう少し高めに、増加率の最大の場合を、1度出していただいて、実は離れているかもしれないという認識を皆さんに共有していただいた方がいいかもしれないというようなことを思っています。いかがでしょうか。

【青井会長】

これに関してはですね、試算を出した環境保健研究センターお願いします。

【事務局】

自然増加率1.21につきましては、2018年に推定した際、糞塊調査とその調査結果をもとに、個体数と自然増加率を同時に推定したときに出た数字ですので、今のシミュレーションで1.21というのは、他のデータで出されたものではないというのが一点と、高橋様のおっしゃられる通りに、外部の環境との変化によって変わる数字でもありますので、そこは検討した方がよいのかとも考えております。

【高橋構成員】

はい。まだ伸びる余地はあると思いますので、その辺りも考慮してそういったものを示していただくといいかなと思います。

【青井会長】

その他、よろしいでしょうか。

【事務局】

先ほどの関係ですが、資料1-5のところですね、糞塊調査の概要の資料つけさせていただきます。

こちらの方を見ますと、平成29年度からの中期的な示しているわけですが、令和3年ぐらいのから捕獲圧を一気に強化しております。結果、平成29年ぐらいからの全体的な傾向を見ていくと。今現在の2万5000から2万7000頭ぐらいのペースで捕獲している中で、糞塊調査の傾向としても、一部の密度が薄くなってきているところを考えると、一定程度、今の捕獲体制の効果が、出てきているのではないかなと推察しております。

【青井会長】

はいありがとうございます。

【高橋構成員】

もう1点よろしいでしょうか。

今のご説明で、これまでのデータに基づいているということは承知しました。

その上でなんですけども、捕獲圧を掛けているということでは減ったっていうのがですね、その指標が糞塊であったり、その目撃効率が減ったというのは、捕獲の効果だけではな

く、捕獲によるシカの忌避による周辺の移動ってということも事例はありますので、その辺りも、認識をしておく必要があるかなというふうに思います。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。今後もそういったことを含めながら、シカの管理業務に当たっていきたいと思います。

【寺長根構成員】

データでは、個体も少なくなって、捕獲数が多くなって、個体が少なくなっているというイメージを受けるわけですけども、山に行くとな、結構まだまだ見受けられるので、今後も緩めないでやっていきたいと思います。

【青井会長】

他に質問はありますでしょうか。

【宇野構成員】

猟友会への質問なのですが、狩猟免許を取っている方が増え、捕獲活動を行い、捕獲数が今2万9000頭となっていると思うのですけど。猟友会としての実感として、実際捕獲者は増えてきているのでしょうか。

【寺長根構成員】

色々あるのでしょうか、この指定管理鳥獣捕獲等事業とかで入る人なのですよ。

毎年ね、新人も結構入っていますし、辞める方と入ってくる方、ちょっと、入ってくれた方がわずかに多いかなという感覚がありますけれども。やっぱり、1年生は1年生ですから、なかなか捕獲までは、1年目からは無理だと思います。

ですから、いろんな事業をやって巻き狩り体験とか、いろいろやってるいわけですけども、なかなかそこにはいかないわけですよ。新しく入った人数と捕獲数が比例するかという、なかなかそうはいかないわけですよ。

やはり、29,000頭とかで、過去数年で倍ぐらいになっていると思うのですが、熟練の方がたくさん取っているというか。また勤めている方ですね、土日だけだとなかなか成果は期待はできない感じでございます。

【青井会長】

その他、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、今年度の計画は提案通りということによろしいでしょうか。意見なしということでございますので、提案通り了承したいと思います。

その他、全体をして意見がないか。ございますでしょうか。

よろしいですか。はい。それであればこれで議事を終了したいと思います。あとは事務局にお返しいたします。どうもご協力ありがとうございました。

【事務局】

青井会長、議事進行大変ありがとうございました。

これをもちまして令和6年度シカ管理検討協議会を終了させていただきます。

本日は長時間にわたり、ご協議いただき大変ありがとうございました